

熊本県立宇土中学校 令和4年度（2022年度）学校評価表

1 学校教育目標

熊本県教育委員会の「令和4年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「令和4年度人権教育取組の方向」等を中心に据えながら、全職員が教育者としての自覚と使命感、教育的愛情と人権感覚を持ち、資質と指導力の向上に努め、生徒一人ひとりの個性を伸ばしながら、知・徳・体の調和が取れ、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、たくましく生きる力を備えた将来のリーダーとなる青年の育成に努める。さらに、本校建学の精神である「質実剛健」のもと百年を超える伝統を継承しつつ、中高一貫教育校として新たな発展と創造をめざす。

中高一貫教育校としての利点を生かし、効果的な教育のあり方を研究するとともに、地域との連携をより一層深め、地域に開かれた特色ある学校づくりに努める。

2 本年度の目標

- (1) 生徒指導（自ら考え自ら行動する生徒の育成）
- (2) 学習指導（『担当者の顔の見える授業』『感動を与える授業』の実践と自学力の育成）
- (3) 進路指導（キャリア教育を基盤とした一人ひとりの進路の夢を実現させる進路指導）
- (4) 豊かな人間性と人権感覚を備えた生徒の育成
- (5) 社会に貢献し、未来を切り拓く力を持った生徒の育成
- (6) 中高6年間一貫教育（魅力ある教育課程の研究と実践）
- (7) スーパーサイエンスハイスクールの推進
- (8) 開かれた学校づくり

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	①小中学校等訪問 ②PTA・同窓会との意見交換 ③広報活動	①近隣校延べ100校以上 ②延べ20回以上 ③学校案内名刺5000枚配布	・年2回の公開授業の実施 ・学校運営協議会の開催 ・PTA役員会、保護者会 ・学校HP、Instagram、ブログの更新頻度の向上	A	近隣の小中学校を中心に校長をはじめ多くの職員で延べ200校以上訪問した。また、近隣の高校と協力し、各校の特色を紹介するチラシを近隣の中学生及び小学校5、6年生全員に配付するなど充実した広報活動を行った。今後もより多くの生徒に周知する取組を実践していく。
	学校の魅力化	①入学希望者数 ②学校説明会参加者数	①中学140人、高校200人以上 ②中学150人、高校250人以上	・体験入学及び学校紹介の充実 ・個別最適な学びの学習環境の確立 ・ICTを活用した探究型授業の実践 ・海外進学ガイダンスの実施	B	・平成30年度入学者選抜を最後に、受検者140名以上を達成できていない。学校説明会に参加する6年生は既に本校受検を決めている児童が多い。受検を決めていない5年生を対象にした体験授業等の実施が必要と考える。 ・中高一貫をPRするために学校案内のイメージの統一化し、中・高セットで案内を配布した。QRコードを掲載したカードを作成し本校HPや動画へのアクセスを促した。
	本校独自の中高一貫教育プログラムの開発と実践	生徒の本校での学びに対する満足度	中高一貫の特色を活かした新たな学びの形をめざすための職員研修を年4回実施	・一人一台端末整備を活かした学び直しコンテンツ等の充実 ・学びのコンテンツの中高間のスムーズな往還・共有	B	新学習指導要領に基づいた中高一貫6年間の学びを見据えた授業改善を実践するための職員研修を年間4回、延べ10時間以上実施した。個別最適な学びの充実を目指した各教科の取組を今後も継続していく。
	業務改善・働き方改革	時間外従事時間	前年比10%削減	・ICT活用による業務の効率化 ・部活動指導方針の遵守、顧問の指導時間の分担 ・月1回の定時退勤日の設定 ・8月定時出退勤月間の設定	B	・各種調査、授業での小テスト、採点などでICTを活用し、効率化を図った。 ・部活動での休息日の確保や活動時間の徹底ができた。顧問の指導時間の分担はあまりなされていない。 ・時間外従事時間約10%削減
		教職員の健康増進及び福祉の確保	年休取得12日以上	・学校閉庁日の設定 ・メンタルヘルス職員研修の実施 ・衛生委員会の充実	A	・年休取得12.2日を達成 ・長時間勤務者が固定しており、業務の平準化が課題 ・衛生委員会で毎月職員の健康状態、業務負担状況を確認し、指導・助言や産業医面談を行った。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	授業の充実	全ての生徒が意欲的に授業に参加する授業の実践	・生徒の理解度及び満足度90%以上の達成 ・生徒U-KI指数45%以上	・個別最適な学び、協働的な学びを踏まえた授業開発 ・授業時数の確保 ・研究授業・職員研修の充実	B	・理解度や満足度を高めるために、個別最適な学びと協働的な学びを更に一体的に充実させるとともに、単元のまとまりごとに短いスパンで理解度を確認していくことが課題である。
	自学力の育成	宅習時間の確保と定期考査の成績向上	宅習時間調査で、校内平均平日：90分以上、休日：150分以上	・生徒に見通しを持たせる指導 ・オンライン課題を含む自宅学習指導の工夫 ・個別指導の充実	B	・一斉一律の課題では、生徒が学びに向かいにくい側面がある。個に応じた課題の設定や自学の充実、生徒自身が学びを管理するのを支援するスケジュール帳の活用などを検討していきたい。 ・オンライン上のコンテンツの充実を各教科に拡充していきたい。
キャリア教育 (進路指導)	自己の発見とキャリアの基礎構築	教科・総合的な学習の時間・学校行事・生徒会活動等での自己の強み発見	・自身の個性・強みを考えた目標設定度90%以上	・キャリアパスポートによる振り返り ・二者面談、三者面談での対話的関わり	B	・小学校からの内容も含め、面談の中で、対話的に関わることができた。 ・キャリアパスポートのより効果的な活用について確認や検討を行いたい。
		系統的な進路学習による進路意識の向上	・学習実態調査における進路に関する質問で、進路について考えている生徒の割合90%以上	・年2回以上の進路講話 ・インターンシップ（中止の場合は有名企業とのワークショップ） ・パネルディスカッション ・学力推移調査の活用	B	・進路講話を学年ごとや中学集会、中学保護者会で2回以上行った。 ・生徒が自己のキャリアについて考える機会を定期的にとることができた。 ・社会の変化に応じた内容を考える必要がある。
	将来を見通したキャリア構想	ICTを活用した個別のキャリアパスポートの作成・運用による指導の充実	・生徒全員作成し、主体的な学びにつなげる	・Google classroomの活用 ・毎学期の振り返りと改善 ・個別のフィードバック	B	・Google classroomで100%作成し、年度始め、1学期末、2学期末に入力させることで振り返らせるとともに、個別に対応しながら改善を促すことができた。 ・クラウド上でのキャリアパスポートの運用は、軌道に乗ってきた。内容について、更なる個別対応が必要である。
		スムーズな中高接続のための情報提供の充実	・宇土高校の情報提供に関する満足度90%以上	・高校教務部と進路指導部と連携したガイダンス ・研究開発部と連携した宇土未来探究講座 ・高校生との関わり ・学年ごとの保護者への情報発信	B	・他校を受験する生徒が減少した。(R3 11人 R4 7人 R5 4人) ・生徒や保護者が宇土高校の情報に対して、どのようなニーズがあるのか確認し、対応した情報提供が課題である。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	服装・あいさつ・掃除の徹底	全職員による生徒指導と生徒に寄り添った配慮ある対応の実践度80%以上	・教師は授業開始1分前までに教室入室 ・学年集会時の整容検査の徹底 ・気づく力を育む清掃活動の指導	B	・服装頭髪に関して、ほとんどの生徒が指導しなくても自分でできている。 ・清掃活動の指示待ちの生徒に関して、指導の工夫改善が必要。
		交通ルールへの遵守とマナーの向上	交通ルール遵守率90%以上、交通事故等1%以内	・定期的な交通指導 ・啓発用のチラシの作成と掲示 ・交通安全教室の実施	B	・全体的な交通ルール遵守はできているが、若干名の違反する生徒がいるため、丁寧な指導が必要。
	自主性や社会性及び公共性を身につける	生徒会中心の行事の運営	生徒会主催の行事の企画・運営の充実、アンケートによる満足度90%以上	生徒総会、文化祭、クラスマッチの見直しと、より一層の充実	A	・生徒主体の行事や発表等を定期的実施することができた。 ・年間計画を作成することで、見通しを持って活動させることができた。 ・生徒会や有志生徒の発案により、前向きな新しい取組を生み出した。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
		各種委員会活動の活性化	目標の明確化、生徒自ら動く委員会活動の実践、達成感90%以上 Google classroomを活用したアンケートの実施	・生徒会執行部の主体による各種委員会の開催と年間計画に沿った活動の実施 ・各種委員会の常時活動の活性化	B	・複数の委員会同士が連携した年間計画のプロトタイプをつくることができたので、今後さらに洗練させていく。 ・各学年の行事が忙しい時には、常時活動を行うことができないこともあった。
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	自他の人格を大切にし、あらゆる差別の解消をめざす生徒の育成	・自他を尊重する意欲や態度の育成 ・他者を共感的に受容するコミュニケーション力の育成	・人権作文、標語等の作成や応募 ・各クラスや中学集会での啓発 ・人権LHRや講演会の実施	B	・生徒が抱える人権に関する課題に対して、全ての生徒が深く考え、思いを表現することができた。 ・各クラスでの啓発をさらに活性化する。
	人権教育の指導方法の改善・充実	学校のエデュケーション全体を通じた人権教育の推進と組織的な取組	・学期1回の人権教育LHRの実施 ・学期1回の職員研修の実施	・全職員による共通理解と実践 ・各種研修会1回以上の参加 ・家庭、地域への啓発	B	・生徒個別の課題に関して共通理解ができた。 ・高校との連携による校内研修や宇城学人権等の研修会に中学部全体で参加した。 ・「振り返りシート」を利用した。 ・職員研修の充実。特に、中学部の課題に応じた研修を計画する。
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適切な支援と対応	生徒の特性に合わせた支援の充実	・個別的教育支援計画及び指導計画を基に、対象生徒全員を支援できている。 ・不登校傾向生徒全員へのアプローチと個に応じた対応ができている。	・全職員による共通理解と実践 ・外部講師による職員研修の実施 ・ICTを活用した学習支援の充実 ・保護者や専門機関との連携と組織的な支援	B	・共通理解のもと、個に応じた支援ができている。 ・今後も保護者、専門機関と連携をし、さらなる個に応じた対応の充実が必要。
		ストレス反応を示す生徒への支援	・該当生徒の早期発見、早期対応ができている。 ・ストレス対処の基本的スキルが向上している。	・スクールカウンセラーとの定期的な面談の実施 ・ストレスマネジメント講話の実施(中2)	B	・心と体の振り返りシートの結果などを活用し効果的な面談ができている。 ・スクールカウンセラー講話後の生徒アンケートでは役に立ったと97%が回答。今後も継続して実施をする。
いじめの防止等	いじめの問題に向けた生徒と職員の協働	いじめを起こさない学校作り	アンケートによる現状把握を毎月実施する。	・アンケートによる現状把握、情報収集、共通理解 ・生徒による「心のきずなを深める月間」の取組	B	・アンケートや担任と生徒との対話により、現状を把握し、解決に向けての取組ができた。 ・教師主導の取組になってしまった。 ・生徒が主体的に取り組む場面が少なかった。
		いじめ問題に向けた組織的対応	・いじめが解消された」という回答100%	・情報集約担当者の活用 ・保護者や関係機関との連携	B	・学年や保護者、SCとの連携が取れた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールの活性化	学校運営協議会の開催	・年2回の学校運営協議会を開催	教育課程の編成、学校経営計画、防災体制等、学校全般について協議を行う。	A	・年2回の学校運営協議会を開催した。 ・学校経営計画、防災体制等、地域への情報発信、働き方改革等貴重なご意見をいただいた。
	地域との連携	地域住民・組織との連携	地域住民・組織・公的機関との連携・協働が学びの充実に繋がっている。	『宇土未来探究講座』において、地域住民・組織・公的機関から講師を招聘する。	A	専門分野の方々による多様な視点からの指導や支援が感動や学びの充実に繋がった。
図書館活動	利用しやすい図書館作り	図書館を利用者が増加しているか。	図書館からの情報発信の充実により、来館者が昨年度より10%増加。	・校内読書月間の実施 ・広報誌『らいぶらりいたいむず』の定期的発行 ・特設図書コーナーや展示の工夫 ・HPブログでの情報発信	B	成果:図書委員が輪番で広報誌の発行を行った。また、高校図書委員の助力もあって、展示の工夫にも取り組んだ。課題:一人一台端末の普及もあり、図書館の利用者が減少した。
	読書活動の充実	生徒の読書意欲が向上しているか。	80%以上の生徒に読書意欲の向上が見られる。	・学校の読書計画に従い、3年間を見通して朝読書に取り組む。 ・多読クラスマッチ実施	B	成果:年度当初のオリエンテーションや朝読書の活動、多読クラスマッチに取り組んだ。課題:他の活動に朝読書の時間が置き換えられる状況が少なくなっている。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
SSH	中間評価において、指摘を受けた事項の改善・対応	指導方法及び評価方法の体系化	6年間を見通した宇土未来探究講座「卒業研究」と高校「ロジックプログラム」の接続体制の充実	・ロジックスーパープレゼンテーションによる探究活動の成果の共有 ・中間発表会等、情報交換する機会の設定	B	成果：本校6年間を通じた探究活動の流れを整理することができた。課題：一部の生徒、一部の研究テーマでなく、様々な探究テーマを支援する体制構築
			探究活動のガイダンス機能及び情報共有の機会の充実	・卒業研究のテーマ設定に関するガイダンス実施 ・高校生の研究成果・デジタルデータの共有	B	成果：高校教員が中学卒業研究に関わる機会を増加、デジタルデータの共有。課題：探究の手法や指導方法の共有
	申請に向けた研究開発の目的・目標の設定、研究開発の内容・実施方法・検証評価方法の設定	研究開発課題の設定	多角的に成果と課題を分析し、第三期申請につながる研究開発課題を設定する。	・卒業生追跡調査 ・在校生意識調査 ・職員アンケート ・量的質的調査 ・生徒の変容の把握	B	成果：中進生に対してSSH事業に取り組むことによるヴィジョンを提示すること、資質・能力を多様に評価する手法を開発。課題：校内での共有方法、課題の分析と方向性の決定

4 学校関係者評価

・宇土中高の様々な取組について「なぜやるのか？」などを発信していけば、周りの理解が増すのではないかと。特に、海外との交流は魅力と感じている。

・探究の「問い」を創る授業は、大学の二次対策をはじめ今の入試に適応していると思われる。

・参観した授業では、教師の発問に対し、生徒たちが様々な角度からグループで考え取り組んでいた。

・生徒たちはタブレットを使いながら授業時間を効果的に活用しており、限られた時間で本当に身につけたい力がつくと感じた。

・観点別評価の適正な実施に伴う定期考査のあり方見直しは大変興味深い。

・近隣の小中学校との連携や情報共有は重要である。特に、交通指導に関する情報共有やルールの統一などの検討も必要ではないか。

5 総合評価

・新しい学習指導要領の導入に伴い、過年度より実施してきた職員研修を更に充実させ、観点別評価の適正な実施及び協働的な学びの充実に向けた取組を進めることができた。

・SSH第Ⅲ期申請に向け、第Ⅱ期までの取組であるUTO-LOGICや探究の「問い」を創る取組等を深化させた新たな教育課程を検討し、より充実した教育活動へとつなげている。

・宇土市及び宇城市の県立高校と連携し、近隣及び熊本市の小中学校に本校のPRチラシを配付するとともに、公道沿いのLEDビジョンを活用し、半年にわたりPR動画を流し続けた。

・遠方から通学する生徒の利便性向上を図るため、バイク通学に関する条件を緩和した。

・学校安全に関する取組として防犯カメラの設置を新たに行った。

6 次年度への課題・改善方策

・中高一貫の学びの充実を目指し、授業改善も踏まえた観点別評価の適正な実施を進めることで、定期考査の見直しなど、より充実した学習活動を展開していく。

・SSHの研究開発の成果やICTの先導的取組を日頃の学習集活動に融合した新たな学びのスタイルを明確に打ち出す。

・本校の強みを地域をはじめ、より多くの方々へ周知するため、広報や情報発信内容及び発信方法に工夫を行う。

・生徒が自ら活動する時間を確保するために、日課、教育課程、課題、考査、通学手段などについて抜本的に見直しを行い、生徒が主体的に学ぶ学校にする。